

## 研修報告書 No. 3

研修先： 大井田病院、渭南病院、  
沖の島へき地診療所

私は、平成 31 年 4 月に大井田病院、渭南病院、沖の島へき地診療所において、地域医療研修をさせていただきました。研修先として幡多グループを選択した理由は、母が四万十市出身であり、慣れ親しんだ土地で地域医療を経験してみたいという些細な理由からでした。高知県に赴くまでは、地域医療を学ぶための実習とはいえ、きっと外来や病棟患者さんの担当で忙殺され、地域医療について考える暇もないのではないかと感じていました。しかし実際に研修が始まると、そのような私の考えは間違っていたことに直ぐに気付かされました。私の研修させていただいた医療施設は、地域の急性期医療を担う中核病院まで車で 15 分ほどの大井田病院、離島という、物資や人材の限られた沖の島へき地診療所、大井田病院とほぼ同規模でありながら中核病院まで車で 1 時間ほどかかる渭南病院です。どの医療施設も地域に根ざした医療を提供するという根底は同じでありながら、置かれた状況が異なるために力を入れている分野が異なり、同じ地域でありながら色々な視点からの地域医療のあり方を考えることができ、また 1 ヶ月という短い期間で研修するからこそ新鮮な比較ができ、結果としてより深く地域医療について考えることができたと思います。

最初に研修させていただいた大井田病院では、午前中は外科外来を中心に研修して、午後からは訪問診療や訪問看護、学校健診や乳幼児健診など盛り沢山の内容でした。急性期を乗り越えて病態が比較的落ち着いた患者さんが在宅復帰するためには何ができなくてはならないのか。そして何ができなくてもいいのか。わかっているようで実際全くわかっていなかったと痛感させられる日々でした。比較的若い人ならば、病気の治療が終わればそのまま自宅へと退院できるでしょうが、高齢者ではそうはいきません。特に地域では高齢者が大半を占めており、受け入れ先の入院施設が足りていない現状を目の当たりにしました。さらに退院後も継続的な治療が必要な方も多々います。私をはじめ初期研修をしている研修医の基幹型研修病院というのは初期研修のプログラムを提供できる医療機関であり、大学病院や市中病院でも病床数の多いところがほとんどで、必然的に急性期の治療が中心になってしまいます。そのため、知識はあったとしても急性期の治療後に患者さんがどのようにして自宅や施設に退院していくのか、具体的にどのような施設や職種の方々がどのように関わっているのか、どのような制度を利用しているのかは考えられていないのが現状です。限られた人員と入院施設をどのように割り当てていくのか、どうすれば今よりもっと質の高い総合的な医療を提供できるのか、きっと正解はなく、それでもその都度考えて行動し続けることが大切なのではないかと身に染みて実感しました。また、大井田病院で研修させていただいていて素晴らしいと感じたのが病院食についてです。大井田病院では病院食を病院で

調理されているのですが、まずその味がとても素晴らしく、使っている材料の鮮度も良いものばかりでした。治癒には栄養が不可欠です。美味しく食事を摂れるということは患者さんにとってはメリットしかありません。合理化を一番に考えるならば業者に委託する方がずっと楽でコストも抑えられると思いますが、それ以上のメリットが、特に患者さんにとってのメリットがあると強く感じました。

沖の島へき地診療所は当初の予定は1泊2日でしたが、天候の関係で1日のみの研修となりました。大井田病院で小児のアナフィラキシーに対する治療について講義していただいたのですが、それが生きる離島研修になりました。昼過ぎに看護師さんの携帯電話に連絡が入りました。ある女の子が小学校で給食を食べた後に、腹痛を訴えたとのこと。その女の子は食物アレルギーの既往があり、エピペンを携帯していましたが、エピペンを使用しても良いかという問い合わせでした。同行させていただいた先生は診察が残っており、さらに今いる診療所にはステロイド等の薬剤がないため、別の診療所に取りに行かなくてはならない状況でした。その別の診療所の方が小学校から近いということもあり、患者さんは小学校の先生が車でその診療所まで搬送し、看護師さんと私が赴いて先生に電話で指示を仰ぎながら初期対応することになりました。車内で嘔吐はありましたが、女の子の容態は比較的安定しており、補液とステロイド投与で自宅に帰ることができました。緊急事態というのは離島だろうとどこだろうと当たり前のように起こりうるということはわかっていましたが、限られた資源と人員の中でどうやってそれに対応しベストを尽くすか身をもって体験できとても内容の濃い、一生忘れることのできない離島研修となりました。

渭南病院は、その立地から慢性期だけでなく急性期の患者さんへの対応にも力を入れていました。そのため一般病床も確保されており、急性期、慢性期、リハビリ、在宅への一連の流れを肌で感じることができました。救急車の受け入れも多くMRIの設備があるのも渭南病院の特色をよく反映していると思いました。また、将来消化器外科医を目指す私にとって、外来で外科的な処置をたくさん経験させていただけたことはとても刺激になり、将来の自分の医師像をより具体的に想像することができました。

初期臨床研修は多忙でなかなかゆっくりと自分の将来について考える時間が取れません。そのような中でこの1ヶ月の地域医療実習は地域医療や将来の自分の医師像についてじっくりと考えることのできる、かけがえのない時間を作ることができました。最後になりましたが、お世話になった先生方やスタッフの方々等、本当にありがとうございました。